

トレーニング・ポートフォリオを活用した 「英語科指導法」の授業効果

山梨県立大学
杉田由仁

はじめに

- 「教育職員免許法施行規則」の改正(平成10年度)による教育実習期間延長
- 「実践的な指導を重視した内容」の授業充実に対する要請
- 「学生にどのようにして教室における実践的な指導方法や内容を学ばせるか」
→「英語科指導法」の最重要課題

『英語科指導法Ⅱ』の授業

- 科目の目的
中学校・高等学校の英語科授業において必要な指導技術の基礎・基本の習得および指導技術への習熟を図る
- 授業方法
オーラル・メソッドに基づく指導過程における指導技術を2コマ展開(第1時:ビデオ観察と指導技術解説、第2時:指導技術演習)で指導を行う

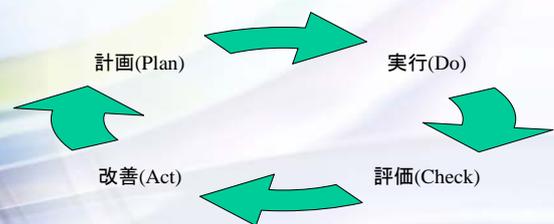
『英語科指導法Ⅱ』の授業

- 授業内容:オーラル・メソッドに基づく指導過程における指導技術
 - ✓ Warm-up activity
 - ✓ Review
 - ✓ Presentation of the new material
 - ✓ Practice and activity
 - ✓ Oral introduction of the story
 - ✓ Reading aloud

トレーニング・ポートフォリオ

- 「ティーチング・ポートフォリオ」
授業実践の記録などに基づいて内省し、教員としての専門的成長のためのツールとして作成するもの
- 「トレーニング・ポートフォリオ」
指導教員など外部からの要求により、学習や自己成長を目的として作成するもの
(Smith & Tillema, 2003)

トレーニング・ポートフォリオの有効性



- ポートフォリオにより学生が指導技術演習をふりかえる材料が与えられ、PDCAサイクルによる技術の習得・習熟が効率的に促される。

トレーニング・ポートフォリオの概要

- 「英語科指導法Ⅱ」講義要綱
- 「基本的指導力」事前調査(ゴール)
- ビデオによる授業観察①～⑥
- 指導技術解説①～⑥
- 指導技術演習に対する評価シート
- 指導技術演習に対する「省察レポート」
- 「基本的指導力」事後調査
- ゴールの達成状況「課題レポート」

「指導技術演習」省察レポート

- 省察ポイント (Richards & Farrell, 2005):
 1. 今回の指導技術演習のどの部分がうまくいったか。なぜうまくいったのか。
 2. 今回の指導技術演習のどの部分がうまくいかなかったか。その原因は何か。
 3. もしもう一度同じことを教えるとしたら、どの部分をどのように変更するか。改善策を具体的に書きなさい。
- 「経験」から「意味」を取り出して次の実践につなげさせる (Rogers, 2002)

「ゴールの達成状況」: 課題レポート

- 課題の内容:
初回の授業において設定した「ゴールの達成状況について」というテーマで学期末に課題レポートを提出
ビジョン: 英語科指導における基本的指導力を向上させる
ゴール: そのために具体的に (1～16から選択) を目標にする
→事前・事後の変化について自己分析を行わせ、ふりかえりの深化を促す(Dong, 2000)

研究の目的

- 指導技術の習得促進を目的として、トレーニング・ポートフォリオの活用を試みた授業の効果を量的・質的に検証し、トレーニング・ポートフォリオの活用と「基本的指導力」の向上について考察を行う

調査方法

- 2010年10月から2011年1月にかけて、13名の受講生を対象として「トレーニング・ポートフォリオ」を活用して授業実践を行う
- 授業効果の量的分析の指標として「日本版EPOSTL」第1次翻案 'can-do' 100項目 (JACET教育問題研究会, 2010)の中から、酒井(2010)が抽出した4因子の内「基本的指導力」を構成する下位因子から再抽出を行った16項目を用いて、10月に事前調査を、1月に事後調査を実施

分析方法

- 量的分析により、事前・事後において有意差が見られた項目について、10月の事前調査の段階で当該項目を「ゴール」として設定した学生の課題レポートの関連する記述を質的に分析する
- 「ゴール達成」に関わり
 - 1) 経験から意味を取り出している記述
 - 2) 達成理由を自己分析できている記述
- これらの有無を質的分析の視点とする

結果: 事前・事後調査における自己評価の変化

「基本的指導力」の下位因子	事前調査 平均値	事後調査 平均値	t(51)
一般的なコミュニケーション活動の指導	2.57	3.85	10.76**
状況に対する柔軟な対応	2.17	3.54	10.84**
省察に基づく調整	2.17	3.56	9.68**
指導の工夫	2.46	3.69	9.22**

結果: 一般的なコミュニケーション活動の指導

- 学習目標に沿った授業形態を選び、授業活動案を作成することができる

↑

「ビデオで見本となる授業を観察することでどのような授業形態で授業を進めていけばよいのかイメージしやすく、自分の考えなども取り入れやすい」

(達成理由に関する自己分析)

結果: 一般的なコミュニケーション活動の指導

- 個人学習、ペアワーク、グループワーク、クラス全体などの言語活動を実際に行わせることができる

↑

「パタン・プラクティスにより基本練習をテンポよく進めることができるようになった」

(達成理由に関する自己分析)

「基本練習を行った文を発展的な活動で使用させ、発表の機会を設定するという言語活動の進め方が理解できた」

(経験から意味を取り出している記述)

結果: 一般的なコミュニケーション活動の指導

- 生徒が言語活動において、英語を使うように促すことができる

↑

該当する記述なし

結果: 状況に対する柔軟な対応

- 授業活動案に基づいて柔軟に授業を行い授業の進行とともに生徒の興味に対応できる

↑

「生徒がどのようなことに興味を持っているのか事前に理解しておくことや生徒の反応に臨機応変に対応することは、教師にとってとても重要な技能であることがわかった」

(経験から意味を取り出している記述)

結果: 状況に対する柔軟な対応

- 授業活動中に、予期できない状況が生じた時、授業活動案を調整して対処できる

↑

「授業を事前にきちんと準備できていればいるほど、生徒の反応を見る余裕が生まれ予期できない状況に対応できる」

「指導案を書く段階で何通りかの状況を設定して指導技術演習を行う」

(経験から意味を取り出している記述)

結果:省察に基づく調整

- 理論を理解して、自分の授業活動を批判的に評価できる

↑

「指導技術演習後に省察レポートを書くことにより、具体的にどの部分が、どのような原因で、どのように良くなったのかを評価できるようになった」

(達成理由に関する自己分析)

「回を重ねるごとに、より具体的、効果的な改善策を考えられるようになった」

(経験から意味を取り出している記述)

結果:省察に基づく調整

- 生徒の集中力を考慮し、授業活動の種類と時間を適切に配分できる

↑

「授業全体における生徒の集中力がどのように配分されているか、授業活動とそれに要する時間配分について、指導技術演習を通して理解できた」

(達成理由に関する記述)

結果:指導の工夫

- 生徒が教科書の題材について持っている関連知識を活用して、効果的なオール・イントロダクションを行うことができる

↑

「絵や写真を用い、生徒自身が持っている知識を発問によって引き出し、できるだけ生徒に答えさせるようにした」

「新出語説明の際に、生徒が知っていると思われる具体例を提示するようにした」

(達成理由に関する記述)

考察:トレーニング・ポートフォリオの効果

「(ポートフォリオに収められた)省察レポートをはじめから1枚ずつ見ていくと、最初はふりかえりも大雑把になってしまったり、細かくふりかえってもポイントがつかめていなかった。だが、だんだん(授業活動の)ポイントを意識しながら**細かく、具体的にふりかえる**ことができるようになり、授業活動にもその改善が反映されるようになった」

考察:トレーニング・ポートフォリオの効果

「授業における『活動』は、扱われる内容・技能を中心に、教師が学習者の協力を得て目的意識的に展開する『行為』の連鎖である」(小山内, 2002, p.158)

考察:トレーニング・ポートフォリオの効果

細かく、具体的にふりかえる

ビデオ観察による「活動」のイメージ

↓

指導技術演習

↓

「活動(=行為の連鎖)」を個々の目的意識的な「行為」に分解して自己分析・自己評価を行う

考察:省察に基づく調整

- 理論を理解して、自分の授業活動を批判的に評価できる
「指導技術演習後に省察レポートを書くことにより、具体的にどの部分が、どのような原因で、どのように良くなったのかを評価できるようになった」 →『活動』を『行為』に分解して行うふりかえり
「回を重ねるごとに、より具体的、効果的な改善策を考えられるようになった」
→授業改善につながる自己分析力の育成

結論:トレーニング・ポートフォリオの効果

トレーニング・ポートフォリオにより、『活動』を『行為』に分解して細かく、具体的に行うふりかえりが促進され、授業改善につながる自己分析力の育成が図られる。

引用文献

- Dong, Y. (2000). Learning to see diverse students through reflective teaching portfolios, In K. E. Johnson (Ed.), *Teacher Education* (pp. 137-153), Bloomington, IL: Pantagraph Printing.
- Richards, J., & Farrell, T. (2005). *Professional development for language teachers*. Cambridge: Cambridge University Press.

引用文献

- Rogers, C. (2002). Defining reflection: Another look at John Dewey and reflective thinking. *Teachers College Record* 74(4), pp.842-866.
- Smith, K., & Tillema, H. (2003). Clarifying different types of portfolio use. *Assessment & Evaluation in Higher Education*, 28 (6), 625-648.

引用文献

- JACET 教育問題研究会 (2010). 『英語教員の質的水準の向上を目指した養成・研修・評価・免許制度に関する統合的研究』平成21年度科学研究費補助金(基盤研究(b)一般)研究成果報告書.
- 小山内 洸. (2002). 「第VI章 教室授業改善の方向」『英語科授業論の基礎』155-185頁 東京:リーベル出版.